

企業大学訪問

日本人の死因で一番といえば、「がん」がすぐ頭に浮かぶでしょう。それは高齢化が進んでいる日本にとって、避けては通れない問題の1つです。

私は今回の企業大学訪問で国立がん研究センターを訪問させていただきました。5人もの医師の方々に対応していただき、また、研究しているがんの分野も様々なものがあると伺っていたので、どんなお話をしていただけるのだろうかとうかがう訪問が決まったときからとても楽しみでした。当日、実際にお会いすると、本当に素晴らしい方ばかりでした。緊張してなかなか質問できない私たちにもとても親切に対応してくださって、気さくにいろいろな話をしてくださいました。そのなかでも印象に残ったこと、2つあります。

1つ目は、5人の方々の国立がん研究センターに来るまでの経緯です。センターのみなさんは私たちのためにスライドを使ってわかりやすくその経緯を教えてくださいました。まず、驚いたことは医学部を卒業した人だけではないということです。私はてっきり医者しか研究が出来ないんだと思い込んでいたので、そう聞いたときは驚きました。また、農学部の人もいるんだよと言われてさらに驚きました。私は将来、医者として研究をしたいと考えてきましたが、研究に没頭するのに医学部でなければならないといことはないんだなと思いました。この話を伺ったことで、どんな学部を選ぼうかという選択肢が広がりました。また、医者を志したきっかけが様々なことにも、とても興味をそそられました。ある方は高1までは作家志望だったとおっしゃっていました。そこから、手塚治虫や柳田邦男の作品や野口英世、中2で膝の手術をしたことなども影響して、命に関わる仕事をしようと思うようになったそうです。小学生の頃から医者になりたいと考えてきたのですが、正直、まだ出会っていない他のやりたいことがあるのではないかと思います。しかし、お話を伺って、最初にやりたいと決めたことをばかりにとらわれているのとはよくないんだなと思いました。これからは同じ高1という将来について真剣に考え始める時期を大切に、様々な分野に興味を持つこと興味を持つことが将来にも繋がるんだと思い、少しでも興味を持ったものはどんどん調べたり、体験したりしてみようと思います。医者になりたいという気持ちが変わるのか、変わらないのかはわかりませんが将来、広く知識を持つことが出来れば、必ず役に立つだろうと思います。まずは、紹介していただいた手塚治虫の「火の鳥」や柳田邦男の「死の医学への日記」を読んでみたいと思います。

2つ目は、がん治療についてということです。がんは1人1人違うんだとおっしゃっていて、私は違うの！？と思いました。普段ひくような風邪と同じで、誰でも同じ薬が効いてなんて思っていたので、ここでも、驚かされました。がんという名前はよく聞くため、何だか知ったような気になっていましたが、実際に伺うと自分は全然知らないことばかりなんだなと改めて実感しました。伺ったがんセンターのゲノム生物学研究分野のホームページで「個別化医療」という言葉を見つけ、なぜ？と調べていたのですが、ここでその疑問も解消されました。先ほども少し述べさせてくださいましたが、「がんは1人1人違う。だからこそ、これからの治療はオーダーメイドになっていくのだろう。そうすれば、その人にあった治療をすることが出来るから、よりスピーディーに進められる。」この言葉を聞いたとき、より研究をしてみたいという意欲が沸いてきました。私の祖父は血液のがんで早くになくなってしまいました。見つかったときにはもうどうしようもなかったそうです。そんなこともあって、私はがんにはなってしまうたらしょうがないと

いった消極的なイメージしかありませんでした。しかし、オーダーメイドで治る確率が上がったというお話を伺ったことで、必ずしもそうではないんだなと思いました。こうやって研究を進めている人がいっぱいいて、また、その研究がたくさんの人を救うんだなと思うと、やはり、医学には計り知れない魅力が詰まっているなと思いました。そして、研究への憧れがよりいっそう強まりました。

3つ目は、「医者」という職業についてのことです。両親が医者だということもあって、他の人よりも少し身近に医者を感じる事が出来ている私ですが、それでも実際にどんなふうにいるのかを詳しく聞いたことがありませんでした。「常に忙しい」この認識はあっていて、みなさん口を揃えて忙しいとおっしゃっていました。そんななかでも息抜きで映画を見たり、本を読んだりするんだとお聞きして、やはり、オンとオフがいかに大切なことなのかということがお話から伝わってきました。また、体力勝負という言葉もおっしゃっていて、医者のハードさがひしひしと伝わってきました。5人の方々のなかには女性の方もいて、訪問させていただいた班の7人中4人が女子だったこともあり、女子勢からたくさん質問をさせていただきました。印象に残ったのは、女性の医者も増えてきて、やりにくいと感じたことはないが、それでもやはり、男社会であることには変わらないとおっしゃっていたところです。そんななかでも、過ごしていけるようにするのも大切なことなんだろうなと思いました。我が二高も女子のほうが少ない環境なので、この高校生活を活かせるように過ごしたいと思います。また、医者同士が結婚すると、女性の方が強いだなんて面白い裏話のようなことも聞かせていただいて、聞き飽きることはありませんでした。巧みなみなさんの話術とともに、なかなか伺うことのできない医者の生の声をお聞きすることが出来て、本当によかったです。

最後に、先ほども述べたように、本当にお忙しいなかで、私たちのためにがん研究センターのみなさまにはお時間をさいただけで、感謝の気持ちでいっぱいです。私たち高校生にもわかりやすく説明もして下さり、センターで過ごした時間は中身の濃い、充実したものとなりました。また、みなさんの言葉の1つ1つに気持ちがこもっていて、医者、研究者としての誇りを感じ、「かっこいい」その一言につきるなと思い、こんな人たちになりたいとも思わせていただきました。それに本来、私たちのなかの進行役が進めなければいけないところでも、みなさんに進めていただけて、こういった先導力のある、リーダーシップのとれる人がこの世界で活躍しているんだらうなと思いました。また、そんな中に医者の素質を見たような気がしました。そんな人になるための力をつけられるのも高校生活の醍醐味なのではないかと私は思います。「様々な将来を思い描きたくさんの人と関わり、高い理想を求めて共に励む仲間を見つけることが出来る」そんな貴重な時間を3年も過ごすことが出来るんだと思うと、改めて、恵まれた環境で生活しているんだなと実感しました。3年もとは言いましたが、時間が有限であることには変わりなく、時間は過ぎて、あっというまに入学から、約4ヵ月がたってしまいました。もし、このタイミングでの東大企業訪問の機会がなければ、ただなんとなくで高校生活を過ごしていたんだらうなと思うと、ゾッとします。大切なことにたくさん気づかされたこの企業訪問に伺えたことを心から光栄に思います。残りの高校生活を学んだことを活かして、精一杯過ごしていこうと思います。